

1.教育理念		
A 学校の理念に基づいた教育が行われているか	非常によく計画・実行されていると評価する。	5
B 学校における職業教育の特色は何か	創設者である池田淑子自身かが考案した池田式製図法等、より実践的な技術や業界の知識を身に付けられるように指導を行っている。実際に業界の現場を経験した教員が最先端の知識や技術を確実に身につけられるよう、懇切丁寧に学生一人一人を教育・指導していることを評価できる。	4.3
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	ファッション・アパレル業界の関係者や有識者を多数 ゲストに招聘し、業界企業との連携を強め、より実践的で時代の先を読んだカリキュラムの内容と、コロナ後の産業動向を踏まえた学科編成を行っている と評価できる。	4.6
D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	学校理念等については、学校案内パンフレット等の広報資料やホームページ、入学式や卒業式の挨拶などで学生や保護者に対して周知を行っている。よって、計画通り実行されていると評価する。	5
E 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	各学科ごとに実施している産学連携授業や研修先、就職先の企業と連携を図ることで、現場で求められる知識や技能、人格を確認。業界最先端の現場に対応した知識や技術を持った学生を育成するべく、授業 内容や設備の拡充を行っている と評価できる。	5
2.学校運営		
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	「ファッション業界で即戦力として活躍する人材の育成」を学校の目的として、一人一人の学生が目指す 職種に合致した、きめ細かい教育を行うことを非常勤 講師を含め全教職員に徹底していると評価する。	4.3
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	毎年、次年度に向けた理事会(後期前)を招集し、運営部で策定された事業計画を検討し承認がなされていると評価する。	4.6
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	理事会をはじめとし、運営部で決定した事項は、各部署各学科の全教職員へ発信することとして明確化されていると評価する。	4.6
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか	人事昇進制度や給与賃金制度については、学内の 規定により定められ整備がされていると評価できる。	5
E 教務・財務担当の組織整備など意思決定システムは整備されているか	運営部の下部に教務、財務等において主幹人事を 配置し、理事会等の意見決定が確実に伝達するシステムが機能していると評価する。	5
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	ファッション業界では教職員及び学生の研修先企業で機密情報に触れる機会も多いため、事前の面談や誓約書を用いてコンプライアンスに対する意識教育を徹底している。また、各学科ごとの就職指導授業においてもマナー教育を実施など、評価できる。	5

G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	ホームページ内のブログでは日常的に授業の様子を配信している。また、産学連携授業や企業研修などの報告、就職実績などの情報は学校資料、ホームページ、オープンキャンパスの説明会資料で広く情報公開していると評価する。	5
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教職員間の連絡コミュニケーションをスムーズにするため、アカウントメールなどの校内ネットワークを整備。また、管理サーバーを構築して業務連絡の効率化をしているほか、学籍管理ソフトを使用して出欠や成績、就職先などのデータを集約している。これらの情報システム化により、業務の効率化を図っていると評価する。	5
3.教育活動		
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	非常勤講師も含めた全教職員会議を年二回開催し、教育理念に沿った教育課程編成の見直しが行われている。また、教育課程編成委員会を年二回開催し、各学科ごとの教育課程編成・実施の見直しと検討が実施されていると評価する。	5
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	非常勤講師も含めた年二回の全教職員会議、学科別の分科会等において、カリキュラムの進行状況、学生の熟度を確認。目標とした到達レベルに達していない場合、必要により補習授業を設定していると評価する。	5
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	非常勤講師も含めた年二回の全教職員会議、教育課程編成委員会、学科別分科会において、各学科のカリキュラム編成を検討し見直しを図っている。積極的にファッション業界で活躍する外部講師の授業を導入しより体系的に最新の知識や技術が習得できるカリキュラムを構築していると評価する。	5
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ファッション業界から招聘した教育編成委員による意見・アドバイスを取り入れたカリキュラムを作成している。各学科においては業界の実務経験者が教鞭をとり、経験に沿った実践的な授業を展開している。さらに、産学連携授業や研修先企業の指導担当者から、業界情報や各種教育評価をいただき、最新のファッション現場を反映した教育方法を常に工夫・開発していると評価する。	5
E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	ファッション業界の企業や業界団体等に教育課程編成委員会に参加していただき、各学科ごとにカリキュラム作成・編成の見直しを行っていると評価する。	5
F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	研修インターンシップについては、専門部署、担当者を配置し年間3,000件を超える機会創出を行い、産学連携では就職指導担当と企業対策室の連携から協力企業の誘致を強く図っていると評価する。	5
G 授業評価の実施・評価体制はあるか	各期末には学生に対して、授業内容に対するアンケートを行い、学生からの授業や施設に関する評価を確認することで、授業内容の向上に役立てていると評価する。	5
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界の即戦力となりうる職業教育に対して、ファッション業界から招聘した教育編成委員会や、教職員研修先、産学連携先からの企業講師により学生の習熟度評価やご意見を伺い、カリキュラムや教材などについてのアドバイスや評価を取り入れていると評価する。	4.6

I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価については実技実習評価、日常点をはじめとした共通の評価項目による評価を1～10段階評価で行い、GPA評価を用いて学習習熟度も測っている。進級・卒業判定については明確な基準があり 客観的に判定をしていると評価する。	5
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	各学科ごとに実施している資格検定取得に対して は、必要な知識や技術を指導する検定合格を目的とした授業を設けている。必要あれば希望者に対して 特別授業も実施している。ただし、学生の経済的な負担を考慮して、資格受験を必須条件とはしてはいない。	4.6
K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	常勤の教員は全員、ファッション業界での専門実務経験を有し、その技術知識を活かした授業を実施している。また、非常勤講師は全員、業界の第一線で活躍する現役であり、生きた情報を学生に伝えていると評価する。	5
L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	ファッション企業のスタッフやスタイリストとして活躍している優れた人材を招聘し、講師として確保している。また、モデル科講師ははモデル協会から、色彩検定授業はその検定協会などから専門講師の紹介・派遣をいただいていると評価する。	4.6
M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	ファッション業界のセミナーや校外講演会や講習会へ積極的に教職員を派遣し、最新情報の収集と技術・指導の維持・向上に努めていると評価する。	4.6
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか	教職員に対しての年間数回の内外勉強会、研修会 への参加や業界・企業イベント等の視察研修を行っ ていると評価する。	4.6
4.学修成果		
A 就職率の向上が図られているか	ファッション業界企業に積極的に働きかけ、企業人事の方による学内企業説明会、OBOG訪問、1年次からの就活ガイダンス授業など担任や専任就活担当によるサポートを行っている と評価する。 また、エントリーシート作成に校内撮影スタジオを利用させたり、カメラマンによる撮影を可能にしている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行による 緊急事態宣言が発令され、業界の求人も減少したが、専任就職担当による個人面談・面接練習会等を通して学生の就職を責任を持って支援している。	4.6
B 資格取得率の向上が図られているか	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行によ り、色彩検定3級やファッションビジネス検定3級等の資格取得の授業がオンラインとなったが、希望者には特別講座を組み、課題を工夫して資格取得率の向上に努めた。	4.6
C 退学率の低減が図られているか	担任による面談カウンセリングを実施。学科コース変更希望による転科がしやすい環境も整備している。 担任制により、出席率の把握や学校とアルバイトなどとのバランスを図り、保護者との連携を行っている と評価する。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、前期がオンライン授業であったが、担任が学生や家庭との連絡を密にとることで退学率は非常に少なくなっている。	5

D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生を学校の財産と考え、事務課により学生の 保管、更新を行い、広報部内には担当者を設け、卒業生の活躍や動向を常に把握している。就職指導の授業やオープンキャンパスでは、活躍する卒業生の インタビューを実施している。校友会を年一回開催しているが、令和2年度は緊急事態宣言のため休止。	4.6
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	卒業生への実体験に基づいた授業内容の是非などを聞き取り、授業内容に反映していると評価する。	5
5.学生支援		
A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	就職指導室、就職指導担当者を設けて各学科及びクラス担任ごとに対面のきめの細かい就職活動支援 と、ホームページを活用したりモートでの支援体制を整えていると評価する。ホームページでは、在校生向けに企業からの求人票も公開している。	4.6
B 学生相談に関する体制は整備されているか	事務内に学生課を設けて奨学金等の各種手続き関 係のサポートを行い、クラス担任による個人面談を実施して学生の不安や悩みに応じている。進路や就職に関しては専任就職担当が相談に応じ、学生相談体制は明確に整備されていると評価する。	4.6
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	各種奨学金、教育ローンの取り扱い窓口を設置。3年進学時に、特待生制度を設けている。災害に見舞われた学生がいた場合は支援する体制も整備していると評価する。	5
D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学生健康管理には迅速な対応をするために事務内 に学生課を設けて対応している。体調不良学生から申し出があれば保健室に通し、必要な場合は近隣の病院を紹介している。令和2年度は新型コロナウイルス感染予防を第一とした体制を組み、登校時等の検温・手指消毒や教室内での密を避けた座席配置、換気の徹底等を実施していると評価する。	5
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生による、同好会、サークルの設置が認められており、活動費の一部を学校が負担している。	4.6
F 学生の生活環境への支援は行われているか	運営部・事務において、被災に関する学費の減額や免除の対応を図っていると評価する。令和2年度はオンライン授業の自宅環境が整わない学生へのオンライン機材支援を実施。	4.6
G 保護者と適切に連携しているか	欠席が連続したり、学校生活で問題あればクラス担任から保護者に速やかに連絡をしている。遠足や学校行事の案内・連絡等でも家庭と連絡を取り指導の連携を図っている。	5
H 卒業生への支援体制はあるか	「永久バックアップ制度」により、施設利用や専門実務経験を持つ教職員との面談、就職転職支援をおこなっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行で求人が激減したため、卒業時点で就職でき なかった者には就職指導を継続し、就職資料室等も使用できる等、支援を強化していると評価する。	5
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	単科コースを設けているが現在は本科の学生が増えた事で募集を停止しています。一方で、造形系の学科では社会人経験者の入学も増えている。	3

J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校での進路ガイダンス、職業体験実習等に教員を派遣している(新型コロナウイルス感染症流行のために令和2年度は休止) また、修学旅行先として職業体験実習を積極的に受け入れている。新型コロナウイルス感染症流行のために令和2年度は休止。	3
6.教育環境		
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	校内年度始めに破損による不足や学生数増加に伴う、機材数追加を行っている。令和2年度においては オンライン授業のための機材を導入などから評価でる。	5
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	技術指導教員をもとに、学生の技術の習得率、習熟率を計り、事前に研修担当者との面談を行うことで、 フォローも研修担当講師を中心に行っていると評価 する。	5
C 防災に対する体制は整備されているか	防災備品の備蓄の見直しを毎年実施している。日本赤十字による救命救急講習会を全教職員が受講するよう整備している。(令和3年度内には全教職員受講完了予定)	5
7.学生の受け入れ・募集		
A 学生募集は、適正に行われているか	各学科の学生募集にあたっては文部科学省、東京 都私学部等の指針に基づき適正、厳正に募集を行っている事を評価する。	5
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教育・就職実績は、学校案内パンフレット、HPやオー プンカレッジなどで公開していると評価する。	4.6
C 学納金は妥当なものとなっているか	常に校内設備の納入先業者の選定、広告費の削減などの経営努力を続け、学費の据え置きを続けていると評価する。	5
8.財務		
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	入学希望者が毎年増加しており、安定していると評価する。	5
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	不要な出費を抑え、妥当な範囲と考えていると評価する。	5
C 財務について会計監査が適正に行われているか	定期監査を行い、適性を保っていると評価する。	5
D 財務情報公開の体制整備はできているか	HPIにおいて公開を引き続き行っていくと評価する。	5
9.法令等の遵守		
A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	学校法人として、教職員には法令順守を最優先事項として管理体制を確立していると評価する。	5
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学生の個人情報については、名簿・成績等を事務にて一元管理しており、データ化された部分についても事務グループの中で、外部の専門企業と契約の上、 ウィルス対策ソフトを導入したパソコンで対策をしていると評価する。	5
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	理事会等で報告を行っている。	5
D 自己評価結果を公開しているか	ホームページで公開していると評価する。	5

10.社会貢献・地域貢献		
A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	日本モデルエージェンシー協会のオーディション会場など、校外からの依頼に応じていると評価する。	5
B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	養護施設への授業作品(衣料品)など、ボランティア提供を続けていると評価する。	5
C 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	中学校の職業体験実習として、地域中学校からの実習を受け入れていると評価する。	4.3
11.国際交流(必要に応じて)		
A 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	特になし	3
B 留学生の受入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか	留学生の受け入れについては、JLPTによる日本語能力試験・N2相当以上の語学力を有する学生に対して行い、学修・生活指導については担任が日本人学生と同じ様に個別に対応していると評価する。	4.6
C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	特になし	4.6